



## 『不思議な剣の伝承－播磨国風土記－』

播磨国風土記には私の興味を引く記事が何ヶ所もあります。それは製鉄や鍛冶に関わる事柄と、播磨の地名、『天日槍：あめのひぼこ』の渡来伝説や国占め争いのことです。

今回は『讃容郡（さよのこおり）：仲川（なかつがわ）里』、『不思議な剣の伝承』です。風土記にいくつもの疑問や新たな興味が湧いてきます。

### 丸部の具（わにべのそなう）

近江の天皇のみ世（667～672年）、仲川に丸部の具という人が住んでいた。仲川は現在の三日月町のこと、藤原京（694～710年）出土の木簡に鉄を納入した記録があります。丸部と書いてワニ部と読むのは中国読み、中国か北部朝鮮からの渡来人。近江で岩鉄（鉄鉱石）を使い、早くから製鉄をした和邇（わに）氏との関連が浮かんできます。日本の製鉄は古墳時代以前、砂鉄製鉄ではなく鉄鉱石です。佐用郡の初期の製鉄は鉄鉱石なのかも知れませんが、ごく僅かの鉄鉱石が採取されていたのでしょうか。河内の國兔寸（とのき）の人から劔（つるぎ）を買っていますが、当時から商品流通が盛んに行われ、鉄を納入し製品である劔を買ったのでしょうか。しかし、輸送などは誰が、どんな方法で行ったのでしょうか。疑問は広がって行きます。（河内の國兔寸村は、大阪府泉北郡高石町富木、「等乃伎神社」あたりです。）

### 苦編部の犬猪（とまみべのいぬみ）

風土記には苦編首等の遠祖、大仲子（おおなかつこ）が息長帯日売命（おきながたらしひめ＝神功皇后）のために苦編を作って奉仕したので、名を賜ったとしています。『犬猪』の犬とは？鉄鉱石や砂鉄を採る鉦山探索人ではなかったか？風土記『讃容郡』の製鉄記事に、『見あらしし人は別部の犬その孫等、難波の豊前の朝廷に初めてたてまつりき。』と記されているがやはり『犬』です。難波の豊前の朝廷（652～655年）

昔、近江の天皇のみ世、丸部の具というものありき。是は仲川の里人なり。此の人、河内の國兔寸の村の人の賣たる劔を買ひ取りき。劔を得てより以後、家擧りて滅び亡せき。然して後、苦編部の犬猪、彼の地の墟を圍するに、土の中に此の劔を得たり。土と相去ること、廻り一尺ばかりなり。其の柄は朽ち失せけれど、其の刃は澁びず、光、明らけき鏡の如し。ここに、犬猪、即ち心に恠しと懐ひ、劔を取りて家に歸り、仍ち、鍛人を招びて、其の刃を焼かしめき。その時、此の劔、申屈して蛇の如し。鍛人大きに驚き、營らずして止みぬ。ここに、犬猪、異しき劔と以爲ひて、朝廷に獻りき。後、淨御原の朝廷の甲申の年の七月、曾禰連磨を遣りて、本つ處に返し送りしめき。今に、此の里の御宅に安置けり。

### 播磨国風土記（715年）

奈良時代の和鋼6年（713年）に元明天皇は、諸国の国司に命じて、地名のいわれ、土地の良い悪い、産物、古老の伝える話などをまとめて提出させました。これが風土記で、現在、まとまったものとしては五ヶ国のものしか残っていません。播磨国風土記はその一つで、古代の歴史を知る貴重な資料です。当時播磨国には12の郡がありましたが、現在残っている播磨国風土記には、明石郡と赤穂郡の記事が欠けています。

この風土記の特徴の一つは土地の良し悪しを克明に書いてあること。二つめは朝鮮半島からの渡来人のことが何項目にも別れ、詳しく書かれてることです。

### 参考資料

日本古代の鉄生産	たたら研究会	丸山竜平	(株)六興出版	1991年
古代播磨の地名は語る	谷川健一	監修	神戸新聞総合出版センター	1998年
播磨国風土記	上田正昭	監修	神戸新聞総合出版センター	1996年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！